

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)



公表 : 令和2年3月10日

事業所名 中津川市発達支援センターどんぐり

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	○		指導室及びプレイルームは、指導内容によって可動式パーテーションで仕切って使用している。	今後も、スペースの有効利用を考えながら、利用定員を検討していく。
	2 職員の配置数は適切である	○		一日20人定員に対し、児童発達支援管理責任者1名、指導担当職員8名で対応している。	配置基準以上の職員数を確保できている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		旧保育園舎を活用しているため、幼児に対応した施設である。	指導室内に不要な掲示物を置かない、使わない玩具などを児童の目につくところに置かないなどの配慮を行っています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		指導室にはエアコンを設置している。冬季はファンヒーター等の併用で過ごしている。	空気清浄器が全室配置されていなかったため、平成30年度に全室に配置しました。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に職員会を開催し、必要に応じて業務改善の検討を行っています。	行事の在り方や指導方法など、改めて考える機会など持つようにした。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		全保護者対象に、アンケート調査を実施しました。	職員会で、集計結果について全職員に周知し、業務改善点について検討しました。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		集計結果をホームページで公表しています。	結果を踏まえて、職員会等で、改善点について、今後検討を進めます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部評価は、定期的には実施しておりません。	平成30年度は、教育評価委員による「教育評価委員会」で評価をしていただきました。事業周知をしっかりと行い、事業の充実に努めることという評価をいただきました。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		発達支援センター主催による「中津川市発達支援関係職員研修会」を3回実施しました。	第3回目の開催は実践講演を兼ねた研修で、幼稚園、保育園の職員に多く参加していただくことができました。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		児童発達支援管理責任者によるアセスメントを実施しています。	今後も保護者のニーズや課題をとらえた計画策定に努めます。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	使用していません。	今後、導入していけるよう研究を行います。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに沿った計画策定を行っています。	地域の園や福祉サービス事業所等との連携による支援を行っています。「地域支援」の観点からの計画内容の説明が不十分であったため、保護者の理解が得られるよう改善します。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画に沿った支援が行われています。	児童発達支援管理責任者による助言、指導により、支援計画に沿った支援を行います。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員集団による検討を行っています。	職員会議等で、個々の課題を出し合い、支援内容を検討し、プログラムを構築します。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		職員間で発達内容に即した活動内容を考慮しています。	今後も指導内容研修会参加や事例検討を行いながら、活動プログラムが固定化されないよう、考慮していきます。
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している		○	個別指導とグループ指導を組み合わせ指導を行っています。グループ指導内容が計画に盛り込みにくい状況です。	個別指導を中心に計画策定しているため、今後グループ指導については、それぞれの個別指導の内容を精査しながら盛り込み実施したいと考えております。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	17	○		職員間の意思疎通を心掛けています。	朝礼で、活動内容の確認、協力体制の依頼など行い、スムーズに支援ができるよう心掛けています。
	18	○		支援が終わった後、職員間でできる限りケース会議を行うよう心がけています。	ケース会議の時間配分などを考えながら、今後配慮すべき事などを職員間で共有できるようにしていきます。
	19	○		日々の指導記録の記入はその日のうちに徹底しています。時間がなときはメモ書き等にして、翌日までには完了します。	指導記録により振り返りと懸案事項など、その都度、児童発達支援管理責任者が聞き取り、課題を見出し検証し、対応しています。
	20	○		児童発達支援管理責任者が6か月ごとのモニタリングを実施しています。	モニタリングにより、必要に応じて計画の見直しなどを行っています。
関係機関や保護者との連携	21	○		児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加しています。	子どもにとって適切な支援を行えるよう、子どもの状況を把握している児童発達支援管理責任者が会議に参画している。
	22	○		関係機関との連携を各種研修会を通じて、密にしています。	「発達支援連絡会」「システム実務担当者会議」参加し、健康医療課や医療機関、教育関係職員などと連携を図り、発達の気になる子どもに対して、早期発見、早期支援につなげます。
	23		○	現在、対象児の在籍はありません。	
	24		○	現在、対象児の在籍はありません。	
	25	○		保護者の同意を得たうえで、支援内容等の情報共有を行っています。	就園連絡会に参加し、各幼稚園、保育園への支援内容の引継ぎをしっかりと行います。
	26	○		保護者の同意を得たうえで、支援内容等の情報共有を行っています。	支援引継ぎシートを作成し、各学校への支援内容の引継ぎをしっかりと行います。
	27	○		他の児童発達支援センターや特別支援教育にかかわる機関との連携を図っています。	東濃特別支援教育連携協議会に参加し、東濃圏域の特別支援教育にかかわる機関や、児童発達支援センターとの連携を図っています。岐阜県障害幼児研究会及び東濃地区障害児指導方法研究会に加入し、研修会などに参加しています。
	28		○	未就園児については、園交流の機会を作っていきます。	3歳以上児はすでに通園しているため、園交流は行っていません。未就園児の園交流は今後積極的に進めます。
	29		○	自立支援協議会に参加しています。	「支援の輪」にも参加し、支援関係者及び当事者の生の声を聴き、障害児者を取り巻く現状把握に努めていきます。
	30	○		指導後に保護者と話す時間を取り、共通理解に努めています。	保護者に寄り添い、保護者の立場に立った助言、指導に努めます。
31		○	令和元年度から実施しました。	保護者からの実施を望む声もあり、引き続き創意工夫をしながら進めて行きます。	
保護者への説明責任等	32	○		通所開始時に、書面を渡ししながら説明を行っています。	今後も、わかりやすく丁寧な説明に努めます。
	33	○		ガイドラインに沿って作成された計画を示しながら、説明を行い、保護者から同意を得ています。	今後も、丁寧な説明に努めます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		6か月ごとのモニタリングにより相談に応じ、適切な助言等を行っています。	今後とも、丁寧な対応に努めます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		児童発達支援管理責任者が同席し、定期的な役員会や茶話会の実施、学習会の開催など、保護者会の活動を支援しています。	茶話会の参加者が少ない為、なるべく多くの参加が得られるように、今後開催時期や時間帯、お知らせの内容などを保護者会と共に考えていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者からの相談には、担当職員や児童発達支援管理責任者が対応を行っている。	いつでも気軽に相談して頂けるよう、相談日を設定するなど体制を整えていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、おたよりを発行し、行事予定などについて情報発信しています。	おたよりの発行に加え、行事の様子などを、ホームページなどで発信し、事業のPRに努めています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		園や保健センターなどとの情報共有には、保護者の同意をいただき対応しています。	SNSなどへの情報のアップについては、職員及び保護者に注意喚起を行っています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		意思疎通、情報伝達のための配慮を行っています。	落ち着いた環境でゆっくり話ができるよう、環境設定を行っています。子どもには、視覚支援などを行い、意思の疎通を図っています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		お楽しみ会やクリスマス会など地域のライオンズクラブの皆様にご参加をお願いしています。	ホームページでの発信を行い、事業のPRに努めています。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	マニュアルを策定しているが、保護者に向けての周知は不十分でした。	マニュアルの周知を行います。不審者対応訓練、感染症対応訓練など、今後実施します。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災、地震訓練を実施しておりますが、全員を対象に実施することは困難です。	災害発生時の対応方法や、避難経路など、掲示板等に大きく掲示したり、リーフレットを作成し保護者への周知を行います。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		通所開始時に、子どもの生育歴や健康状況などについて、保護者にアセスメントシートに記入していただき把握しています。	今後も、支援にあたり留意すべき点など、しっかりと把握したうえで支援を行います。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事指導は行っていないが食物アレルギーの有無について、アセスメントシートに記入していただき把握しています。	現在、重いアレルギーを持つ子どもがいないため、医師の指示書までは取っていないが、今後対象となる子どもが通所した場合は、必要となりますので、対応できるよういたします。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例が発生したときは、記録を残し、事業所内で情報共有しています。	職員会などで、事例に基づき、再発防止の対策などを考慮しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		中津川市が職員対象に実施する研修会等に参加しています。	職員会等で、研修内容を逐次報告し情報共有しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	現在、身体拘束が必要な子どもが通所していません。	今後、対象の子どもが通所した場合に備え、事前に検討する必要があります。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。